



アジア健康構想

2025年12月15日開催「Viet Nam and Japan: Discussion for Future Cooperation
Based on the Roadmap on Aging and Nutrition」開催概要

内閣官房 健康・医療戦略室
2026年2月

要旨

- 高齢化・栄養をテーマに、日越双方の有識者から知見の共有に加え日本企業からソリューションの紹介がなされ、活発なディスカッションが交わされた。
- ベトナム側からは、ハノイ医科大学病院をモデル拠点として、日本の地域包括ケアや介護・栄養の知見を取り入れた「ベトナム版・日本型高齢者ケアモデル」を構築し、全国展開につなげたいとの要望が示された。また、制度・モデル設計に関する知見共有、人材育成支援、日本企業と連携した技術・製品のPoC、住民・医療従事者への啓発等への一体的な協力への期待が併せて示された。



日越関係者の集合写真



ディスカッションの様子

イベント概要

[開催概要]

目的	令和6年度事業にて合意した、日本政府とハノイ医科大学病院との間での高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップのフォローアップ
主催/共催	内閣官房 健康・医療戦略室/ハノイ医科大学病院
日時	2025年12月15日(月) 高齢化セッション 9:00-12:00、栄養セッション 13:30-16:30
場所	ハノイ医科大学病院

[プログラム]

高齢化セッション

時間	アジェンダ
9:00-9:10	開会挨拶
9:10-9:20	「アジア健康構想」および「高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップ」の概要 - 内閣官房 健康・医療戦略室
9:20-9:45	Disease model of elderly inpatients at Hanoi Medical University Hospital in 2024 - Ho Thi Kim Thanh Vice Principal, Hanoi Medical University
9:45-10:10	ディスカッション
10:10-10:35	Japan's Community-based Integrated Care System: Lessons for Aging Vietnam - 肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア、研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長
10:35-11:00	ディスカッション
11:00-11:10	休憩
11:10-11:25	ベトナムにおける高齢化関連の課題に対するビジネスの展望、Q&A・ディスカッション
11:25-11:40	- インフィック株式会社、ウエルコンサル株式会社、
11:40-11:55	パラマウントベッド株式会社
11:55-12:00	閉会挨拶

栄養セッション

時間	アジェンダ
13:30-13:35	開会挨拶
13:35-14:00	Nutritional status of the elderly in Vietnam and some intervention solutions - Tra Vi Department of Nutrition & Dietetics, Hanoi Medical University Hospital
14:00-14:15	ディスカッション
14:15-14:40	Achieving Healthy Longevity Through Nutritional Care - 五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授
14:40-15:00	ディスカッション
15:00-15:10	休憩
15:10-15:30	ベトナムにおける栄養関連の課題に対するビジネスの展望、Q&A・ディスカッション
15:30-15:50	- カーブジェン株式会社、キッコーマンバイオケミファ株式会社、
15:50-16:10	キューピー株式会社
16:10-16:30	閉会挨拶

オープニングリマーク、内閣官房による講演概要

[オープニングリマーク]



斉藤 雅文 氏

在ベトナム日本国大使館 一等書記官

- 日越関係は「アジアと世界における平和と繁栄のための包括的戦略的パートナーシップ」の下で最良の段階にあり、医療分野でも協力が深化している。
- 特に高齢化・栄養分野では、昨年ハノイ医科大学病院間と日越協力ロードマップを合意。それに沿って、本日の意見交換会が開催された。
- 多くの日本企業の参加に謝意を示すとともに、ベトナム側が日本の医療・栄養ソリューションを参考に公衆衛生改善を具体的に描く機会となることを期待している。



Dr. Le Tuan Linh

Deputy Director of Hanoi Medical University Hospital

- 本イベント開催に感謝する。過去2回の協力を踏まえ、高齢化・栄養分野における協力をさらに強化したい。
- ベトナムは高齢化と関連疾患の増加に直面しており、日本企業が持つデイケアなどの先行事例から最適なサービスモデルを学びたい。
- また栄養では、将来高齢者となる世代も含めた栄養対策について深い意見交換を行いたい。

[「アジア健康構想」および「高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップ」の概要]



内閣官房 健康・医療戦略室

- 日本政府は「アジア健康構想」の下、ベトナムを含む6か国と二国間協力覚書を署名し、医療・介護・予防・街づくりまで含む広範なヘルスケア協力を進めている。
- ベトナムとはヘルスケア合同委員会(協力覚書の進捗を監督する委員会)を含むハイレベルでの政策対話を重ね、高齢化・栄養分野での連携強化が合意され、ハノイ医科大学病院とは両分野に関する協力ロードマップを合意済みである。
- 本日の意見交換会ではロードマップに沿った日本企業の技術・サービスも共有される。今後の実証、人材育成、海外展開を政府として引き続き支援していく方針である。

有識者による講演・ディスカッション概要

[Disease model of elderly inpatients at Hanoi Medical University Hospital in 2024]



**Assoc. Prof. Ho Thi Kim Thanh,
MD, Ph.D.**

Vice Principal, Hanoi Medical University
Head of Family Medicine Department,
Hanoi Medical University Hospital

講演概要

- HMUHと日本は高齢者ケアで協力を深めており、2026年以降に具体的な成果を出したい。
- ベトナム側は治療中心から予防中心への転換を進めており、日本モデルをHMUHで試して普及していきたい。
- 高齢者の外来は自己負担でも信頼できる病院を選ぶ傾向があり、多疾患で再受診も多い。入院患者は高齢者割合が高い。
- 入院日数が短くなりやすい急性期対応を主に行うため、入院日数は他院より短い。ゆえに、HMUHがあまり受け入れない回復期・慢性疾患患者を受け入れる関連医療機関でのリハビリ・栄養等も重要である。
- 定量的なデータをもとに政策提言や論文化を目指している。

ディスカッション概要

- ベトナムの医療・介護現場では、老年専門医の不足や高齢者看護の知識不足、リハビリや下位施設への連携不足、看護師・介護人材の不足が深刻である(講演者)。
- 日本側が有する、介護保険制度等の制度的知見、また急性期→回復期→在宅となった後、それぞれにおけるケア体制や、見守りセンサー等の民間ソリューションが共有され、今後の人材育成・DX導入に向けた協力の重要性が確認された(講演者)。

[Japan's Community-based Integrated Care System: Lessons for Aging Vietnam]



肥後 裕輝 氏

九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長

講演概要

- 急速な高齢化を迎えるベトナムにおいて、日本の「地域包括ケア構想」の枠組みが参考になる。
- 市町村が中心となり、医療・介護だけでなく、多職種・地域資源を束ねて高齢者の生活全体を包括的に支える必要がある。
- 福岡市の事例では介護人材不足や多機関連携の難しさ、単身高齢者へのアウトリーチなどの課題が明らかとなっている。
- 解決には先端的科学技術の戦略的活用や地域資源を調整するリーダー育成、全年齢層を対象とした健康寿命延伸の取組が重要である。

ディスカッション概要

- 日本の地域包括ケア構想を参考に、ベトナムでもコミュニティベースの高齢者ケア体制の導入を検討すべく、来年ハノイでパイロットを実施したい。医療と介護を総括するモデルを目指している。今後、必要人数・費用など具体的モデルを模索したい(参加者)。
- 課題は人材・技能不足、資格制度の未整備、財源未確保など(参加者)。
- 老人病棟の未整備や高齢者向け設備不足も課題。整備にあたり日本の介護テクノロジーの同時導入に関心がある(参加者)。

日本企業による講演・ディスカッション概要

【 インフィック株式会社 】



講演概要

- IT・人材教育・海外事業を展開し、在宅介護や海外での日本式ケアが強みで、フィリピンでも事業をしている。
- 最大課題はケアギバー不足で、IT活用が鍵である。見守りセンサーLASHICを開発し、夜間巡視の自動化や誤嚥・転倒の予防などに効果を出している。ITを使える介護士の育成制度も独自に整備している。
- 日本で学んだ人材がベトナムで日本式介護を提供する循環型エコシステムを目指し、両国の高齢化課題の解決に協力したい。

ディスカッション概要

- LASHICを学び病棟でデモ導入したい意向があり、PoCを共同実施したい(参加者)。
- 中間施設や在宅へのセンサー設置で地域全体の高齢者を見守るモデルも議論した。2026年を目標に導入検討を進めたい(参加者)。

【 ウェルコンサル株式会社 】



講演概要

- 介護人材教育を中心に医療・介護が共生する街づくりを進め、日本式介護の資格取得支援やOJT/Off-JTをデジタルで管理するCareProなどを提供している。
- JICA・JETROの支援でリハビリ人材育成も進め、サングループ等とも連携している。さらに、3D Body ScannerやHiTRESなど日本のIT機器を活用したリハビリ提案モデルを展開し、高齢者向け住宅×クリニックの統合的ケアモデルの海外実証も実施している。

ディスカッション概要

- IoTデバイス等の導入に関心がある。広い地域での遠隔見守りや転倒予防への活用を期待する(参加者)。
- ベトナム国内においては高齢者ケアを支える人材育成が課題である。看護師研修の必要性や介護人材育成の重要性が強調された(参加者)。
- 現在、ベトナムではケアギバーの標準産業分類コードがなく、制度的な位置づけが曖昧で、政策として整備しなければ安定したサービス提供ができない点が問題として指摘された(参加者)。

【 パラマウントベッド株式会社 】



講演概要

- 日本で高い医療・介護用電動ベッドの市場シェアを有し医療・介護から健康領域へと事業を展開している。ベトナムにも工場と販売拠点を有する。
- 眠りSCANはマットレスの下に敷く非接触センサーで、体動から睡眠状態をリアルタイムで把握し、夜間巡視等の業務効率化や転倒予防に寄与する。睡眠日誌は生活改善や家族・医療者との共有にも活用され、日本でも二十万台規模の導入実績がある。ベトナムでもデモ導入を進めたい。

ディスカッション概要

- センサー本体のコストに加えて、Wi-Fi環境やモニター設備のコストが必要になる一方、夜間見守りのための人件費を考慮すると、ランニングコストの観点では導入メリットが大きいと考えられる(講演者)。

有識者による講演・ディスカッション概要

[Nutritional status of the elderly in Vietnam and some intervention solutions]



Ms. Tra Vi

Department of Nutrition & Dietetics, Hanoi Medical University Hospital

講演概要

- ベトナムでは高齢者の嚥下・咀嚼機能低下により栄養失調やサルコペニア(高齢になるに伴い、骨格筋の量が低下し、筋力や身体機能が低下した状態)が深刻化している。
- 栄養管理の強化が急務で、保健省は36の手順書を制定し全国規模での研修を進めているが、嚥下障害への介入やとりみ剤不足、人材不足など現場の課題は大きい。
- HMUHではリハビリと栄養士の協働モデルを導入した。今後、法制度・保険支援の拡充や栄養研修強化が必要になる。

ディスカッション概要

- 手順書の公表など、栄養管理の質が高まってきたと認識する。一方、嚥下障害への対応として、とりみ剤だけでなく、固形食への工夫も必要である(参加者)。
- ベトナムでは高齢者の栄養データが不足しており、今後は高頻度な調査に期待する(参加者)。
- ユニバーサルデザインフードの概念共有や栄養評価ツールの整備、ヘルスセンターでの栄養相談体制構築が課題である。また、食品・医療分野での細菌検査ソリューションへも関心がある(講演者)。

[Achieving Healthy Longevity Through Nutritional Care]



五味 郁子 氏

神奈川県立保健福祉大学
保健福祉学部 栄養学科 教授

講演概要

- 高齢者の臨床栄養・NCDs対策・嚥下障害への多職種介入の重要性、そして糖尿病教育入院の意義などが共有された。
- ベトナムは高齢化の入口にあり、早期から栄養ケア体制を整える必要があると指摘した。
- ユニバーサルデザインフードの基準づくりや嚥下・栄養評価ツール導入、クリニカルパス作成によるエビデンス構築が重要で、栄養ケアプロセスを病院全体で機能させる仕組みづくりが鍵である。

ディスカッション概要

- ベトナムでは高齢者栄養・嚥下障害への政策整備が進み、老人病棟やコミュンヘルスセンター(郡保健センターの保健ユニットの一つ)での栄養管理が強化されつつある(参加者)。
- 一方、実践面では人材不足や技術のばらつきが課題で、日本のエビデンス活用や教育支援への期待が大きい(参加者)。
- 嚥下食基準、評価ツール、糖尿病教育入院の仕組みなど日本の実践が参考になり、今後は栄養士の育成と安全な嚥下評価体制の構築が重要である(講演者)。

日本企業による講演・ディスカッション概要

[カーブジェン株式会社]



講演概要

- AIを用いたソリューションとして、グラム染色を自動化するPoCGS、顕微鏡画像から細菌を判定するAIソフトBiTTE、クラウドプラットフォームCarbConnectを紹介した。属人化や非効率性の解消が目的で、ベトナムでも実証試験を実施している。
- これら技術は食品・栄養分野の衛生管理にも応用可能で、培地上のコロニー判定など新たな活用の可能性も検討される。

ディスカッション概要

- 装置は医療機関・研究所・食品会社など既に細菌を扱う環境ならば設置可能で、新たな安全基準は基本不要である(講演者)。
- AI活用については、入力データに制限はなく、大量データの解析により食品衛生や栄養管理の傾向把握・対策立案が可能とされた。具体の応用策は今後双方で検討するべきであり、目的に応じたアウトプット設計が鍵である(講演者)。

[キッコーマンバイオケミファ株式会社]



講演概要

- 食中毒の要因の一つとして、調理器具の洗浄不十分があるため、洗浄度を可視化するATP検査が有効である。
- ATP検査は誰でも10秒で実施でき、見た目では判別できない汚れ・細菌残存を数値化できる。
- 日本では衛生指導や教育ツールとして広く活用され、ベトナムでのフィールド調査でも導入後に洗浄状況が改善したことが確認された。

ディスカッション概要

- ベトナムでの本格導入はまだないが、実証には前向きである(講演者)。
- 日本では、レストラン、食品工場、病院厨房などで食中毒防止に広く利用され、医療現場では内視鏡や手術器具の洗浄評価にも活用されている。清掃業務を委託する場合、清掃会社が洗浄前後の評価レポートを提出する際に利用するケースも考えられる(講演者)。

[キューピー株式会社]



講演概要

- 野菜摂取を軸に健康寿命の延伸へ貢献する取組を実施。サラダやドレッシングを通じてビタミン・ミネラルを補い、心筋梗塞・脳梗塞など生活習慣病の予防を支援する。
- 日本国内では、サラダファーストの普及やユニバーサルデザインフード基準に合わせた介護食の開発なども進めており、メタボ・フレイル・認知症・感染症の改善に寄与できる。今後ベトナムの健康的な食生活への貢献を目指す。

ディスカッション概要

- ベトナム向け入院食の味付けや調理法での協力を検討したい。嚥下対応食やとろみ剤など高齢者食の導入には時間が必要だが、個別に議論を進めたい(参加者)。
- 患者教育や医療従事者向け研修による食行動改善も重要で、科学的エビデンスに基づく効果提示を求める(参加者)。

ご挨拶、クロージングリマーク

【ご挨拶】



- ベトナムとして、日本の高齢者ケアや介護保険制度等、高齢化対策を多くを学びたい考えがある。
- 年1回の健康診断を無料で提供することなどを定めた、新人口法の施行も踏まえ、日本側モデルを参考に高齢化対策をパイロット導入し、全国に展開していきたい。
- 人材育成や技術移転を含め、日本側の継続的な支援を強く期待している。

Dr. Phan Thi Thu Huong

President of the Hanoi Medical University Council



Dr. Nguyen Lan Hieu

Director of Hanoi Medical University Hospital

- HMUHIは、2026年からハノイ市人民委員会の委託で、高齢者ケア事業を開始予定である。日本の老人ホームモデル、特にアルツハイマーや末期がん患者も受け入れる多様な入居施設の視察を行いたい。今後、ベトナムに最適な高齢者ケアモデルについて日本側の提案を求める。
- 数年にわたり日本政府と協力してきた。今後は成果物を拡大し、突破的な活動につなげたいという期待を抱いている。

【クロージングリマーク】



Assoc. Prof. Ho Thi Kim Thanh, MD, Ph.D.

Vice Principal, Hanoi Medical University
Head of Family Medicine Department, Hanoi Medical University Hospital

- ベトナム側から感謝を申し上げる。2026年に向け日越で協力し高齢者介護・栄養ケアの明確な取組を開始したい。
- 日本のモデル導入には政府・自治体との政策連携が不可欠であり、HMUHIにおける取組をパイロットとして地域包括ケアに近い形の高齢者モデルを実証し、成功後は全国展開を目指す方針が確認された。老人ホームや高齢者が暮らすモデル地域の設計については、日本の参考事例を提示して頂きたい。
- 高齢者向けの見守りセンサーや、IoTソリューション、また、衛生関連の検査製品について、パイロット導入を検討していきたい。また、野菜摂取等に関する啓発活動も実施していきたい。下位病院・地方への普及に向けて、費用対効果を検証したい。
- 栄養・高齢者ケアに関して、日本側からも専門家として参加頂きながら、住民や医療従事者向けの啓発活動を実施していきたい。
- 継続的な協力への感謝とともに、今後ともベトナムでの医療・介護システムの高度化に向けた貢献への期待を抱いている。